



堀江謙一氏 世界最高齢単独無寄港 太平洋横断に成功！

ヨットで世界最高齢となる単独無寄港の太平洋横断に挑戦して、見事に世界記録を塗り替えた、海洋冒険家 堀江謙一氏（83）が、6月4日未明、69日間の航海を経てゴールに設定していた紀伊水道を通過した。

堀江謙一氏は、3月26日9時45分、出発地点となるサンフランシスコのゴールデンブリッジを通過し、約8500キロ離れた日本に向かつて航海をスタートした。

60年前の1962年、23歳という世界最年少で太平洋単独無寄港横断を成し遂げた堀江謙一氏が、60年後の2022年に、世界単独無寄港で同じサンフランシスコヨットクラブから、しかも60年前のサントリーマーメイド号と同じ大きさのヨット、サントリーマーメイドⅢ号で出航したことは、サンフランシスコヨットクラブのチエアマンのダン・ワイネキー

氏を始め、サンフランシスコ市長や、日本國總領事川村博司氏からも激励を受けた。

6月4日未明には、無事到着ゴールである和歌山県の日御崎灯台を通過した

マーメイドⅢ号の堀江謙一氏は、新西宮ヨットハーバーのビジターバースにて、一夜を過ごすことになり、翌日5日の正午から予定されている無事帰港歓迎式までマーメイドⅢ号で待機となつた。



その後正午から、新西宮ヨットハーバーの8番ブース前にて無事帰港歓迎式に報道陣が駆けつけ、約1000人が集まつて行われ、西宮市長の石井登志郎氏や堀江謙一氏在住の芦屋市長の伊藤舞氏や関西ヨットクラブ（KYC）土井良太理事長からも無事帰港歓迎のスピーチが熱く語られた。堀江謙一氏は、「今、青春真っ只中です。この度の航海は、精神的、肉体的に力一杯、出し切りました。」と、帰航のスピーチを元気な声で語られたのがとても印象的であり、観衆の皆が大きなパワーをもらった様子が見受けられました。



関西ヨットクラブ（KYC）新年会にて 堀江氏と西川夫妻

私と堀江謙一氏との出会いは、2004年に関西ヨットクラブ（KYC）に入会したところから始まりました。堀江謙一氏は、すでにKYCの名誉理事長をされておりKYCの新年会や各行事に時々顔を出しておられました。関西ヨットクラブは、1964年に

期せずして、関東の葉山マリーナヨットクラブも同じ1964に発足され、2014年には、共に50周年を迎えた歴史あるヨットクラブです。その関西ヨットクラブの50年誌には、私が石原慎太郎氏から譲り受けた愛艇、コンテッサ六世が掲載されておりとても懐かしい限りです。私がヨットに思いを寄せ始めたのは50歳を過ぎてからで、小さな頃から海に憧れていたからだと思います。早速小型船舶一級の免許証を取得して、友人の寺尾俊明さん梁川国昭さん達と、屋久島や五島列島など遠方クルーズを始め、それぞれの島や港で食事など楽しみを覚えました。広島の観音マリーナから宮島クルーズなど、日本の地中海とも呼ばれる瀬戸内海を走り回っています。

（JMCA理事長西川雅夫記）
海が教えてくれるもの、それは自然の中で自分は、常に海を通じて世界に繋がっているという実感です。そんな意味からも、JMCA理事長として、SDGsの『海の豊かさを守ろう』には、人一倍感心を抱いています。
何事にも勇気を出してチャレンジする堀江謙一氏の姿に感動し、前に向かって、"Let's save the earth!"（地球を守ろう！）の掛け声のもと、SDGsの趣旨に賛同し、JMCAを通じて命輝くさまざまな問題の解決に取り組んで参りたいと思います。



海洋冒険家（ソロセーラー・ヨットマン）

堀江謙一氏

1938年大阪生まれ、1954年関西大学第一高校入学 同校ヨット部入部、1962年世界初単独太平洋横断、1992年～1993年世界初足漕ぎ（人力）ボートで太平洋単独横断、2004年～2005年ホーン岬東回りで単独無寄港世界一周、2008年世界初、ウエーブパワーボートで太平洋単独横断、2011年日本政府より「内閣総理大臣賞」、2022年3月世界最高齢での単独無寄港太平洋横断に成功
関西ヨットクラブ（KYC）名誉会員

太平洋単独横断という快挙に當時伊藤忠商事会長の小菅宇一郎氏を中心に関西財界人が世界に通用するヨットハーバーを関西に作ろうじゃないかと言う事で発足されたと聞いております。



石原慎太郎氏から譲り受けた愛艇「コンテッサ6世」と西川理事長



内閣府認証 NPO法人 ジャパン メディカル ケア アソシエーション

西川 雅夫 理事長

1948年大阪生まれ、1971年甲南大学卒業後、現大阪リコーに入社、1972年セキセイ入社後、副社長を経て、1985年代表取締役社長に就任、2013年代表取締役会長就任、1978年大阪青年会議所入会、2009年春 黄綬褒章受章、2020年JMCA理事長に就任、全日本文具協会理事、大阪紙製品工業会副会長、ODC大阪デザインセンター理事、DAS総合デザイナー協会デザイナー会員
関西ヨットクラブ（KYC）会員



ある関西ヨットクラブ（KYC）会員の西川雅夫がビジターバースに停泊中の堀江謙一氏に5日早朝に無事帰港歓迎の单独インタビューを行いました。堀江謙一氏に、「69日間の航海を経て、嵐などに遭われなかつたですか」と尋ねたところ、「西川さんの嵐とはどれくらい嵐なのか」と聞かれたので笑つてしましました。航海中は、カレーとコーンフレークを毎日のよう位に食べ、医療関係の薬などは全て用意していたが、使ったのは、目薬とバンドエイドだけと笑つて言われたことがとても印象的でした。

その後正午から、新西宮ヨットハーバーの8番ブース前にて無事帰港歓迎式に報道陣が駆けつけ、約1000人が集まつて行われ、西宮市長の石井登志郎氏や堀江謙一氏在住の芦屋市長の伊藤舞氏や関西ヨットクラブ（KYC）土井良太理事長からも無事帰港歓迎のスピーチが熱く語られた。

堀江謙一氏は、「今、青春真っ只中です。この度の航海は、精神的、肉体的に力一杯、出し切りました。」と、帰航のスピーチを元気な声で語られたのがとても印象的であり、観衆の皆が大きなパワーをもらつた様子が見受けられました。